

米国ワシントン州 リンゴのシーズン後半は一部の品種で増収

[FreshPlaza](#) 2024年12月6日

ハニークリスピーやガラなど、ワシントン州の早生品種のリンゴの供給量は、昨シーズンに比べて少ない。暑い夏は収穫量と品質に影響を与え、出荷率を低下させた。2023/24年度シーズンは供給過剰と低価格の状況にあったため、出荷量の減少は生産者に安堵感を与えた。しかし、生育期間終盤の良好な天候条件により、一部の品種では状況が変わり、当初の予想よりも出荷量が多くなった。L&M社のダン・デイス氏は、「素晴らしい天候条件のおかげで、グラニースミス、ふじ、ピンクレディー、コズミッククリスピーなどの晩生品種が樹上に長く留まって肥大を続け、色付きも大変良くなった」と話す。これらの品種はすべて堅調な作柄で、今後数カ月の間、絶好の小売の機会を提供する。(以下「」は同氏の発言)

価格

懸念されるのは、晩生品種がワシントン州のリンゴの総出荷量の約60%を占めていることである。その収量が高くなると、全体の生産量に大きな影響を与える。現時点では、生産者は幸運に恵まれ早生品種のリンゴの価格が昨シーズンよりも高くなっている。これらの価格は収量の低下を埋め合わせるほどには高くないが、一部の荷動きを阻害する水準にあるという懸念がある。「我々は、リンゴの荷動きが止まらないようにするため、適切な価格設定について小売業者と話し合っている。店頭で他の農産物ではなくリンゴを手取るよう人々にインセンティブを与えることが重要である。」

需要

感謝祭の需要増加はリンゴ業界を後押ししたか? 「荷動きは良かったが、もっと活発でもよかった。今年の感謝祭は11月の末と遅かったので、売上が少し停滞する週があった。今週は通常に戻ることを願っている。」

国内の停滞の一部を輸出で補うことができたが、今後の潜在的な関税を考慮すると懸念があるのも無理はない。「以前の追加関税の一部が撤廃され、インドなどの特定の市場へのアクセスが回復したため、業界は現在、輸出量を再度積み上げている。」レッドデリシャスなどの一部の品種は、国内市場ではあまり好まれないが、世界の別の地域の消費者には人気がある。「大きな可能性を提供してくれるので、これらの輸出市場の存在は非常に重要である。」

しかし、トランプ次期大統領が就任する1月に何が起こるかは不透明である。関税が(再)導入された場合、それは大きな損害を与える可能性がある。アジアへの輸出が米国の産業にとって重要であるだけでなく、中南米も主要な市場である。「メキシコは弊社の主要な貿易相手の1つであり、現在はこの市場への良好なアクセスを享受している。」(以下、デイス氏の着任について省略)

執筆者: マリーケ・ヘムズ

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)